



民生委員・児童委員
のシンボルマーク

のばそう愛の手

戸塚区民生委員児童委員協議会

第29号
H31.3.20発行



はじめての民生委員・児童委員

「民生委員を引き受けてくださいますか」と言われて、「私にできることなら…」と引き受けてみたけれど、**本当に私でもできるのかしら？心配だわ…。**



民生委員・児童委員は、それぞれ担当する区域内で、地域福祉増進のための幅広い活動を行っています。



先輩の民生委員さんから引き継ぎ。

今日は初めての地区の定例会。自分が担当する地区のひとり暮らしの高齢者の方の名簿をいただき、個人情報の管理の仕方や守秘義務について説明を受けた。不安だったけれど、**分からないことは、先輩の民生委員さんが教えてくれた。**



自分の担当地区のひとり暮らしの高齢者の皆さんにご挨拶。

今日は前任の方と一緒になので心強い。これからは私が訪問に伺います。どうぞよろしくお願ひします。



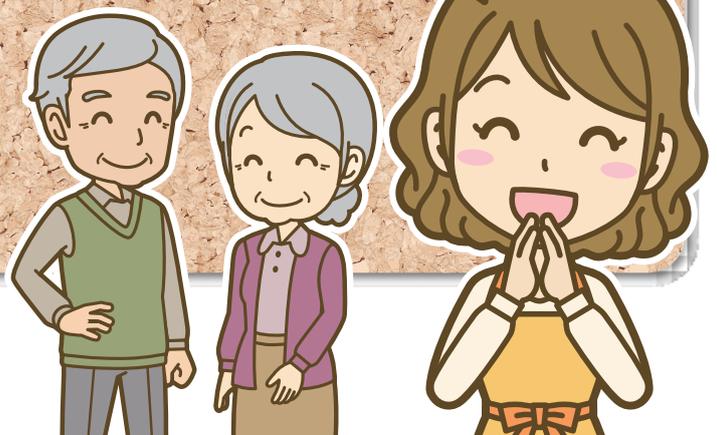
とつかハートプランマスコット「こころん」



高齢者の方向けのお食事会の日。

朝から準備のお手伝いをした。皆さんの笑顔が嬉しい。**これくらいなら、地域のためにお手伝いできるかな。**

先輩の皆さんが助けてくださるから、安心。
私なりにがんばれそう!!



※民生委員・児童委員は自治会・町内会等の代表で構成される地区推薦準備会で推薦され、厚生労働大臣と横浜市長の委嘱を受けて活動しています。

◆戸塚第二地区民生委員児童委員協議会の活動紹介◆

子どもから高齢者まで ふれあう第二地区

戸塚第二地区民生委員児童委員協議会会長 永原 道雄



ご近所のお友達と仲良く外遊びを楽しみます。

戸塚第二地区は、主任児童委員も含めて6名の少人数で活動しています。

未就園児の親子を対象に、矢沢町内会館で実施する子育て支援サークル「にこにこキッズ」では、おしゃべりや子育てのちょっとした相談とともに、天気の良い時はぜんぱ公園での外遊びを行っています。

また、健康増進と地域の絆を深めることを目的に毎月矢沢町内会館で実施する「骨・骨クラブ」や矢沢公園で行われる「ふれあい太極拳」は、地区社会福祉協議会が中心になって取り組んでいる活動です。

その他、「トツ2ウォーキング」では、戸塚に限らず、保土ヶ谷・鎌倉・逗子・曾我の梅林等、県内色々と足を伸ばしてウォーキングを楽しんでいます。

また、長年矢沢町内会館で行われ、親しまれてきた「ふれあいサロン」は、スタッフの高齢化に伴い、しばらく活動を休止していました。しかし、地域の皆さんの「是非とも再開して欲しい」との希望に応え、新たに調理を行うボランティアを募って、平成26年11月11日から再開することができました。

手づくりの昼食を参加者の皆さんと一緒にテーブルでいただいたり、「今月のお話」として毎回ゲストをお呼びして、地域の耳よりな情報や、時節に合わせた心身の健康などについて話していただいています。

お話の後は、電子オルガンの生伴奏での合唱の始まりです。70歳から90歳以上までの沢山の方が参加されていますので、皆が歌えて楽しめる歌の選曲は毎月の楽しい悩みです。例えば、モーツァルトの子守歌から水戸黄門、はたまた「踊るポンポコリン」など！？

私たちも、参加者の皆さんと一緒に時を忘れて楽しむひと時です。

これからも、微力ではありますが楽しくお手伝いさせていただこうと考えています。



地場の野菜をたっぷり使った栄養満点のお弁当をいただきます。

◆踊場地区民生委員児童委員協議会の活動紹介◆

話し合いから生まれるまちづくり・踊場

踊場地区民生委員児童委員協議会会長 飯高 昌子



美味しいコーヒーと、さまざまなイベントで楽しいひとときを過ごします。

踊場地区は、主任児童委員も含めて17名の民生委員・児童委員が活動しています。

日頃の活動としては、地域情報などを掲載した「お元気ですか」というチラシを持って、ひとり暮らし高齢者宅を訪問するなどの見守り活動を行っています。(中にはお元気な方もいらっしゃるのので、チラシをポストに投函するだけの方もいます。) 見守りの方法は地域によってさまざまですが、「お弁当の配食」を行っている町内会では、ボランティアさんが見守りのお手伝いもしていただきます。

また、昨年の6月からは県営汲沢団地の会館で「踊場ふれあいカフェ」を始めました。スタートにあたっては、ボランティアスタッフが、地元の喫茶店のマスターを講師に迎えた「コーヒー名人養成講座」でサイフォンを使った本格的なコーヒーの淹れ方を教えていただき



「見守りプロジェクト」では、「いま」と、「これから」の課題について活発な意見が交わされます。

ました。

お揃いのエプロンをつけたスタッフが、美味しいコーヒーと手作りケーキでおもてなしします。毎回 30 人程の方がいらっしやり、3 台のサイフォンがフル活動する大変な賑わいです。時間があれば、スタッフもお客様とのおしゃべりを楽しみます。また、汲沢地域ケアプラザの「移動図書館」の本が来ており、翌月のカフェで返却できることもあり利用者が増えています。

その他に、老人クラブの友愛活動員の皆さんと年に 2 回行う「見守りプロジェクト」では、認知症や健康に関する事例を取り上げています。このように、誰もが「安心して暮らせるまち踊場」を目指して連合町内会や地区社会福祉協議会と連携して、これからも様々な活動を行っていきたくと考えています。

主任児童委員連絡会の活動紹介

「子どもの虹情報研修センター」を見学して 汲沢地区主任児童委員 織田 智子



外国で、国や自治会から送られる出産祝い一式。すぐに役立つものがいっぱい。

日なたの暖かさが嬉しく感じられるようになってきた 10 月 18 日、主任児童委員連絡会で「子どもの虹情報研修センター（日本虐待・思春期問題情報研修センター）」の施設見学に伺いました。自分の子どもが通っていた小学校の通学路にあるこの施設は、私にとって長い間日常の風景の一部だったのですが、足を踏み入れたのは、実は今回が初めてのことでした。

施設に入ると、2階のレインボーラウンジの壁に飾られている子どもと空いっぱい7色の虹の図と、スタンドガラスの窓から差し込む柔らかい日差しに迎え入れられました。

平成 14 年に設立され 15 年 3 月に開所したこのセンターの主な機能としては、専門研修（実践 5 年以上が対象）、専門相談、専門情報の提供、研究活動の 4 つがあります。まず、施設内を案内していただきました。職員は 18 名（非常勤 7 名を含む）おり、フロアには児童養護施設から自立した子どもへ食品など宅配便を届ける「おふくろ便」の展示や、外国で子どもが生まれた時に国や自治体から送られるお祝いの品一式の見本などがありました。多くの虐待に関する書籍類が収蔵されている図書閲覧室では、昭和のスポーツ根性物として名高い「巨人の星」も読めます。今ではこれも「虐待事例」になってしまうのかもしれませんが。

その後、専門相談室長の小出先生から「児童虐待の影響と対応」と題して、実例を挙げての研修がありました。「虐待の連鎖を断つためには善い大人との出会いが大切である」という言葉が心に残りました。日本では、児童相談所などの相談員の数が進進諸外国と比べると格段に少ないそうです。子どもたちが安心して生きていけることがあたり前の社会にできるように、困った時に頼れる身近な大人としての主任児童委員の役割の重さを改めて考える機会となりました。



「おふくろ便」の中身は、実家から送られてくる生活用品や食べ物というイメージ。ぬくもりを感じます。

民生委員・児童委員も
ハートプランの推進に
取り組んでいます。

とつかハートプラン

誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現のために



「小さな気づき 寄り添う心 頼れる地域の『つなぎ役』」



～これからも、民生委員・児童委員活動へのご理解とご支援をお願いいたします～

民生委員児童委員協議会 会長・副会長研修に参加して

平戸地区民生委員児童委員協議会会長 林 一郎

平成 30 年 11 月 20 日(火)・21 日(水)の二日間、長野県長野市にある善光寺大本願が設立した、社会福祉法人「善光寺大本願福祉会」の福祉施設で視察研修を行い 33 名の委員が参加しました。

施設のある長野市若穂地区は、高齢化率(65歳以上の方の人口割合)が32%(戸塚区の 1.3 倍)と高く、面積は戸塚区の 1.6 倍で人口密度は0.03倍と過疎化も進んでいるそうです。

ここに、「高齢者の皆さんが老後を健やかに送ることができるように」と、善光寺大本願法主 故一条遅智光上人の発議により、特別養護老人ホーム「大本願ユートピアわかほ」が平成3年に開所されました。自然豊かな敷地の中には、他にも数多くの福祉施設が点在しています。

「大本願ユートピアわかほ」では約 50 名が入居し、最高齢の方は 99 歳だそうです。部屋は 4 人部屋が多く、部屋には花の名前がつけられています。週 3 回は好きなメニューを選べる等、食事にも工夫をしているとのことでした。

次に、認知症通所介護施設「こもれび」に向かいました。大きな庭があり、中にある畑では野菜等を作っています。また、私たちが訪問した時は、入居者の皆さんが収穫した綿の花をほぐす作業を行っていました。家庭的な雰囲気、広くて暖かい縁側もあり、ほっと安心できる光景でした。

その後「ケアプラザわかほ」のデイサービスセンターを視察しました。40 名ほどの方が機能訓練や趣味の活動などを行っています。男性の利用者の方も比較的多いようで驚きました。



利用者の方もスタッフもいきいきと活動されている姿が印象的でした。

「住み慣れた地域で暮らすお手伝い」が基本理念とのことで、車椅子で利用しやすいようトイレの入口がカーテンになっており、座ったままや寝たきりでも安心して入浴できる機械浴槽などもありました。

この法人では、高校の新卒者を積極的に採用して、施設で働きながら資格の取得ができるよう応援しているとのこと。そのため、全国的に問題になっている介護職員の離職者もここでは少ないとも聞きました。

施設からは長野市街地が一望でき、豊かな自然の中で利用者の皆さんとスタッフとの心と心のふれあいとぬくもりを感じた訪問でした。

編集後記

今回のテーマ『はじめての民生委員・児童委員』について話し合う中で、5年前に初めて一人で高齢者訪問をしたときのことを思い出しました。緊張のあまり、どなたとどんな会話をしたのかも覚えていませんでした。

その頃は、民生委員とは？と悩みながらの活動でした。

今でも訪問の前は緊張しますが、時には冗談を交えていろいろな話をしながら活動ができるようになりました。少しは成長したのかなと思います。まだまだ未熟者ですが、これからもよろしくお願いします。(中田)

【編集委員】門井 富士夫、飯高 昌子、林 一郎、川戸 千代、中田 美記子、手塚 睦子

【発行責任者】露木 光夫 【事務局】戸塚区福祉保健課 ☎866-8418